

2-19-1 妙高山大隆寺の歴史

- 承応 2 年（1653）、第 4 代金森頼直が創立、開山は京都紫野大徳寺前住「禅海宗俊」。京都金龍院の末寺となる。臨濟宗としての大隆寺である。
- 第 3 世乾舟妙一も大徳寺の前住で、書画をよくした。瀬戸の陶工加藤源十郎を同道。
- 金森氏転封後は荒れてしまい、元禄 5 年（1692）から宝暦 12 年（1762）までの 70 年ほど無住、その後、留守居の道心坊は騒客を招くなどして、遊戯道場となった。
- 安永 7 年（1778）、曹洞宗の「大而宗龍」が京都金龍院から謝礼金 100 両で譲り受け、大隆寺を再興した。古堂を壊して田とし、現大隆寺境内地に本堂、禅堂、庫裡等を造立した。師の天徳悦巖素忻を、曹洞宗大隆寺としての開山とした。宗龍和尚は、曹洞宗大隆寺の第 2 世となる。
- この時から越後国曹洞宗万福寺の末寺となった。
- 宝暦（1751～）除地帳には、山林 1 町 3 反、石高 3 石 8 斗とある。
- 文政 13 年（1830）、庫裡用材、西之一色熊野社の檜の寄付を受けた。
- 天保 12 年（1841）、妙見社、きれいにできすぎたので御役所より注意有。
- 明治 10 年（1877）釈迦堂新築
- ※境内、隣接墓地に金森宗和の碑、館柳湾の詩碑、芭蕉の碑有。
- ※鎌倉時代の鰐口（県文化財）を宝蔵。これは朝日町甲区で、長八が発掘したもの。銘「敬白奉施入金一口岩❌寺正応二年十二月十八日願主沙彌道阿」、高山の野口養安ほか 16 人が買い取って大隆寺へ寄進した。

リーフレットより